



報道関係各位

2005年6月13日

フォルテ・デザイン・システムズ株式会社

**セイコーエプソン（株）研究開発本部**  
**次世代画像処理 SOC の設計にフォルテ社製 Cynthesizer を採用**

「C 言語記述による動作レベル機能ブロック（IP）の開発により、  
アーキテクチャー検証とハードウェア（RTL）設計の一貫性を実現、  
複数プロジェクトでの再利用により SOC 開発期間の大幅な短縮を目指す」

カリフォルニア州サンノゼ - <2005年6月13日>フォルテ・デザイン・システムズ（Forte Design Systems）は、セイコーエプソン株式会社（以下、エプソン）が同社の次世代画像処理アプリケーション向けの開発にフォルテ社の動作合成ツール Cynthesizer を採用したことを発表しました。Cynthesizer の卓越した安定性と高性能に加え、フォルテ社が動作合成の分野において業界トップレベルであることが採用の決め手となりました。

「フォルテ社の Cynthesizer および動作合成、検証分野における他の選択肢について厳密な評価を行った結果、開発プロジェクトにおいて、当社の次世代民生機器向け設計フローに組み込む高位設計技術として、フォルテ社の動作合成ツールを選択しました。」とセイコーエプソン（株）研究開発本部情報通信技術開発室 室長 轟氏は語りました。「従来の設計手法では、C 言語レベルでのアルゴリズム検証を行った設計資産を生かせず、RTL 設計者がマニュアルでハードウェア化を行っていました。今回フォルテ社の Cynthesizer を当社のシステム・レベル開発プロセスに組み込むことにより、C 言語レベルでの検証とハードウェア化（RTL 設計）を一環して行えることを確認し、部門内での設計プロジェクトに採用すると共に、他プロジェクトおよび派生プロジェクトでの再利用可能な IP の開発により SOC 開発期間の大幅な短縮を目指します。」

「エプソンのような民生機器設計の先端企業が、SystemC と動作合成のソリューションとしてフォルテの製品を採用いただいたことを大変光栄に思います。」とフォルテ社の顧客サービス担当副社長 Brett Cline は述べました。「Cynthesizer をエプソンの次世代画

像処理アプリケーション開発に採用するという同社の決定は、最先端の電子機器設計に内在する課題の解決策として、フォルテ社の SystemC ベースのアプローチが高い信頼性と高性能を併せ持つものであることを示すものです。」

#### **フォルテ社製Cynthesizerについて**

フォルテ社のCynthesizerは、抽象度の高いアルゴリズムから高品質のRTL設計を自動生成することにより、複雑なチップやシステムの設計に必要な時間を大幅に短縮します。Cynthesizerはその品質に妥協することなくシリコンで実証済みの実績があり、その結果は多くの場合マニュアル・コーディングしたRTLを上回ることができます。また、Cynthesizerは合成、検証、協調シミュレーションを含む完璧な環境を設計者に提供する唯一の動作合成ツールであり、75以上の設計で使用され、世界中で多くの大規模システムや半導体メーカーにおいて実設計に使用されています。

#### **フォルテ・デザイン・システムズについて**

フォルテ・デザイン・システムズ(Forte Design Systems)は抽象度の高い設計を可能にするソフトウェア製品を提供する先端企業です。フォルテの革新的な動作合成技術により、設計チームはASIC、FPGA、SoCを使ってアルゴリズム・デザインから複雑な電子システムを開発し、設計および検証に要する時間を大幅に短縮することができます。フォルテ本社住所は 100 Century Center Court, San Jose, CA 95112。詳しくはフォルテのホームページ[www.ForteDS.com](http://www.ForteDS.com)をご参照ください。

----- 本件に関する報道機関からのお問い合わせ先 -----

フォルテ・デザイン・システムズ株式会社 山田 電話 045-478-2268  
E-mail:yamada@forteds.com